

TWS クリエーター・イン・レジデンス・オープン・スタジオ

## トーキョー・ストーリー2013 第三章「私をとりまく世界」

2013年7月13日(土)～2013年9月23日(月・祝)

トーキョーワンダーサイト渋谷

トーキョーワンダーサイト(TWS)は、東京における世界中のクリエイターの制作プラットフォームとして様々な活動を行っています。そして、様々なジャンルや国籍のクリエイターたちが毎年約100名、各プログラムに参加し、東京や海外の派遣先を舞台に意欲的な作品づくりに取り組みます。

「トーキョー・ストーリー2013」では、2012年度TWSのクリエイター・イン・レジデンス・プログラム(GiR)に参加したクリエイターたちを、第一章「今、此処」、第二章「アーティスト」というテーマのもと紹介してきました。第三弾となる本展では、海外への派遣プログラムに参加した池田剛介(メルボルン派遣)、奥村雄樹(バーゼル派遣)、アートの課題2012「in the AIR」にてTWSに招聘したヌール・アブアラフェ、モハメド・アブデルカリム、そして海外クリエイター招聘プログラムにてTWS青山:クリエイター・イン・レジデンスで滞在制作を行ったスッティラット・スパパリンヤの5組が作品を発表します。「エネルギー」と「アイデンティティ」を活動のテーマとして制作を行った彼らは、震災以降、誰も意識せざるを得なくなった電力や、政治、場所など、周囲を取り巻く環境に左右される(或いは自ら進んで変容を求める)自己の存在を時に客観的に見つめ、時に深層まで入り込んで表現を試みます。「トーキョー・ストーリー2013」を締めくくる最終章にご期待ください。

展覧会名: トーキョー・ストーリー2013 第三章  
会期: 2013年7月13日(土)～2013年9月23日(月・祝)  
会場: トーキョーワンダーサイト渋谷 (〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8)  
開館時間: 11:00～19:00 (最終入場は30分前まで)  
休館日: 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)  
入場料: 無料  
主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト  
アーティスト: 池田剛介、奥村雄樹、ヌール・アブアラフェ(パレスチナ)、モハメド・アブデルカリム(エジプト)  
スッティラット・スパパリンヤ(タイ)  
ウェブサイト: <http://www.tokyo-ws.org>

◎オープニング・レセプション: 7月13日(土) 18:00～20:00

参加アーティストも来場いたします。お誘い合わせの上、ぜひお越しください。

◎アーティスト・トーク: 7月14日(日)15:00～(予定)

出演: 池田剛介、奥村雄樹、スッティラット・スパパリンヤ

**<参加クリエイター>****■池田剛介**

1980 年生まれ。2005 年に東京藝術大学大学院 先端芸術表現専攻を修了。平成 17 年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてアメリカに滞在。自然現象や生態系などへの関心に基づき、水をモチーフとした平面作品およびインスタレーションを展開。震災以後、電力問題や自然災害をふまえながら 21 世紀のエネルギーのあり方を提示するプロジェクトを、他のアーティストとの協働で展開している。近年の主な個展に「Plastic Flux」(Lower Akihabara, 2009)、グループ展に「東京藝術発電所」(東京藝術大学, 2011)、「堂島リバービエンナーレ」(堂島リバーフォーラム, 2011)など。

**■奥村雄樹**

1978 年生まれ。2012 年に東京藝術大学大学院博士後期課程修了。近年は落語家や通訳家との共作によるプロジェクトを映像作品として発表。自身も翻訳家として活動するほか、実名あるいは変名で執筆も手がける。子どもを対象としたワークショップ「くうそうかいぼうがく」を各地で実施。主な個展に「Anatomie-Fiktion」(バーゼル大学解剖学博物館, バーゼル, 2012)「善兵衛の目玉(宇宙編)」(愛知県美術館, 2012)、単独の上映会に「ジュン・ヤン 忘却と記憶についての短いレクチャー」(女子美アートセンター準備室, 愛知県立芸術大学など, 2012)、主なグループ展に、「MOT アニュアル 2012 風が吹けば桶屋が儲かる」(東京都現代美術館, 2012)、「VOCA 展 2012」(上野の森美術館, 2012)などがある。

**■ヌール・アブラフェ(パレスチナ)**

1986 年生まれ。2011 年ベツアルエル美術デザイン学院卒業。故郷であるパレスチナや訪れた場所、人々のアイデンティティと社会問題を扱った作品を制作。近年の主な展覧会に、「Young-artist-award-exhibition」(A.M Qattan Foundation, ラマツラー, 2011)、「Try, Retry」(Al Sakakeni Cultural center, ラマツラー, 2009)など。

**■モハメド・アブデルカリム(エジプト)**

1983 年エジプト、エルミニヤ生まれ。2005 年にヘルワン大学(エジプト)美術教育学部を卒業。近年の主な展覧会に、Downtown Contemporary Arts Festival (D-Caf)での「I am not there」(The Townhouse Gallery, カイロ, 2012)、98 weeks bazaar(テッサロニキ・ビエンナーレ, テッサロニキ, ギリシャ, 2011)、コンサート・パフォーマンス(Kunst Halle Sankt Gallen, サント・ガレン, スイス, 2011)、グループ展「Border Disorder」(Gallery Depo, イスタンブール, 2009)、「Beyond the desert」(gallery Darb 1718, カイロ, 2009)など。2013 年に「シャルジャ・ビエンナーレ 11」(アラブ首長国連邦)参加。

**■スッティラット・スパパリンヤ(タイ)**

1973 年生まれ。2001 年にライプツィヒ視覚芸術アカデミー メディア・アート学科大学院(ドイツ)、1997 年チェンマイ大学芸術学部絵画学科(タイ)を卒業。近年のグループ展に、「世界に開かれた映像という窓 第 28 回:スッティラット・スパパリンヤ」(広島市現代美術館, 2012)、「RiverScapes IN FLUX」(ハノイ/サイゴン/バンコク/カンボジア/ジャカルタ/マニラ回覧, 2012-2013)、「Korat Chitchat」(Education Center for Health (常設展示), バンコク, 2012)、「Art On Farm: a diary from the Isan plateau」(ジム・トンプソン・アート・センター, バンコク, 2012)、第 4 回恵比寿映像祭 映像のフィジカル(東京都写真美術館, 2012)、個展「Hypothetical」(MediaNoche, ニューヨーク, 2011)、黄金町バザール 2011(横浜, 2011)、「Siamese Connection 2011: Rediscover」(The Invisible Dog, ニューヨーク, 2011)などがある。

<広報用画像>



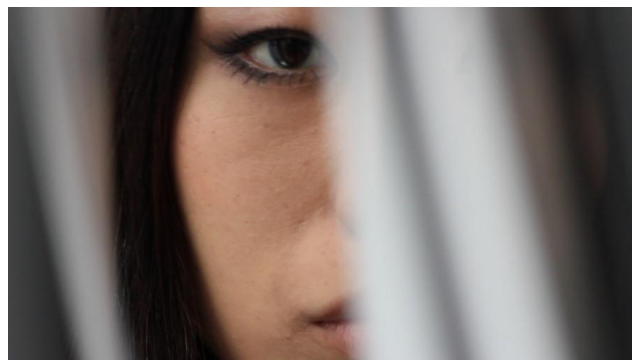
池田剛介 《Excycle》  
2012 自転車、交流電  
源、発電機、レコード・プ  
レーヤー



奥村雄樹 《くうそうかいぼうがく(パーゼル編)》2012、スイス・インタ  
ーナショナル・スクール(パーゼル)でのワークショップ  
Courtesy of the artist and MISA KO & ROSEN



ヌール・アブラファエ 《生よりも死に近い状態》2012、写真



モハメド・アブデルカリム 《陰謀は消費を凌駕する》2012、映像



スツティラット・スパパリンヤ 《10 Places in Tokyo》2012、写真



スツティラット・スパパリンヤ 《10 Places in Tokyo》2012、写真

<お問い合わせ先>

公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト 担当: 浅野・千賀

TEL: 03-5766-3732 E-mail: [press@tokyo-ws.org](mailto:press@tokyo-ws.org)